

研究 成果 情報

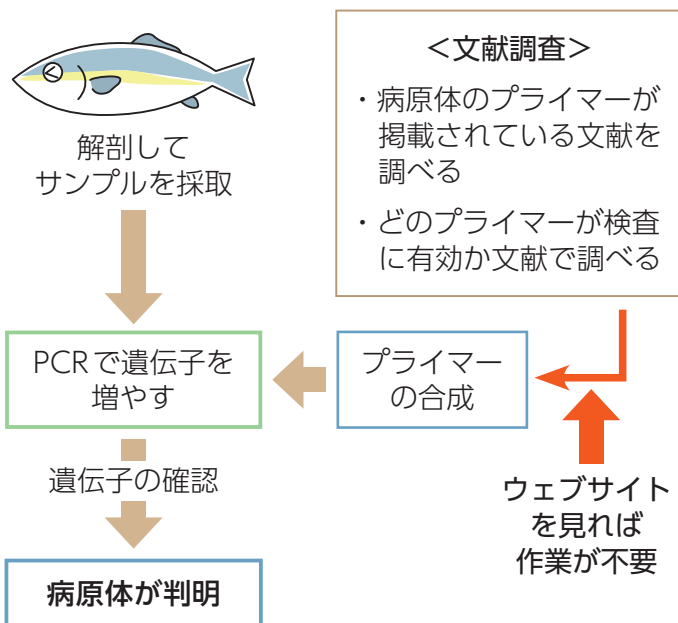
魚病診断のPCR用プライマー情報を提供

PCRは、ポリメラーゼチェーンリアクション (Polymerase Chain Reaction) の略です。特定の遺伝子だけに結合するプライマーというDNAを2種類使い、その遺伝子を増やす手法のことです。これにより、遺伝子の研究が飛躍的に進み、ヒトやマダコなどの遺伝子が解明されています。

養殖の現場では、魚介類の病気は大きな被害につながるため、迅速な診断が必要です。最近では、魚病を診断する都道府県の水産研究機関でもPCRが普及しています。PCRによる魚病診断では、検査する病原体ごとに専用のプライマーが必要です。例えば、コイの病気の診断では、可能性のある病原体ごとにプライマーを使ってその遺伝子が検出されるか調べます。コイヘルペスウイルスの遺伝子が検出されれば、コイヘルペスウイルスに感染していると

診断されます。また、プライマーは各機関で作成する必要があり、そのための情報は学術雑誌で確認しなくてはならず、手間がかかります。このような、魚病診断の複雑な作業を軽減するため、水産研究・教育機構では、魚介類の病気の診断に使えるPCR用プライマー情報を整理

してウェブサイト(※)で公開を始めました。重要な病気は、実際にプライマーを使って診断可能か確認した結果も掲載しています。現在、魚病ウイルス35種類、甲殻類ウイルス2種類の情報があります。今後、細菌や寄生虫などの情報も掲載していく予定です。



ウェブサイトを見れば、文献を調べる作業が不要になり、診断までの時間が節約できます



魚類のヘルペスウイルスなどを含む合計37種類のプライマー情報を掲載

※ <http://nria.fra.affrc.go.jp/sindan/pcr.html>